注意報
茨城県病害虫防除所　　平成 29 年 3 月 30 日

病害虫発生予察注意報 第 2 号

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が高まっています

イネ縞葉枯病の多発生が懸念されるため，育苗箱施薬によるヒメトビウンカの防除を徹底しましょう！

［発令の内容］
作物名　：水稲
病害虫名：イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）
発生量　：多い
発生地域：県西地域，県南の一部地域

［発令の根拠］

① 平成 29 年 2 月下旬～3 月上旬に県西地域，県南地域の水田畦畔等から採集したヒメトビウンカ越冬世代幼虫におけるイネ縞葉枯ウイルス（以下 RSV）の保毒虫率を調査した。その結果，県西地域の 10 地点中 9 地点で，県南地域の 3 地点中 3 地点で 10%以上の高い値となった（表 1）。

表 1　ヒメトビウンカ越冬世代幼虫の RSV 保毒虫率

地域	調査地点		保毒虫率（%）[1]		
			平成27年	平成28年	平成29年[2]
県西	結城市	大谷瀬	－	12.8	48.4
		小田林	22.1	27.7	34.0
	下妻市	大宝	17.9	30.9	37.2
		大園木	－	29.3	31.4
	常総市	本豊田	20.0	13.8	20.3
	筑西市	二木成	35.3	34.6	36.2
		西方	－	34.6	20.2
		久地楽	－	27.1	34.0
	桜川市	加茂部	1.1	5.9	3.7
		真壁町白井	11.6	10.1	22.9
県南	つくば市	大形	6.0	22.1	38.3
		上菅間	－	13.9	34.6
	美浦村	木原	－	－	13.0

1） 簡易 ELISA 法により検定
2） 採集月日：平成 29 年 2 月 28 日，3 月 1,6,9 日　　検定月日：平成 29 年 3 月 14 日
※－：未調査

［被害の特徴と媒介虫の生態］

① イネ縞葉枯病はヒメトビウンカが媒介するウイルス病である。発病すると葉に黄白色から黄緑色の縞状の斑紋を生じる。イネの生育初期に発病すると新葉が垂れ下がってやがて枯

死し，出穂期に発病すると穂が出すくんで籾が奇形や不稔となり，減収する。

② ヒメトビウンカは幼虫がイネ科雑草等で越冬し，4 月上旬頃になると成虫になって麦圃場に飛来する。麦圃場で増殖した後，6 月上～中旬頃に水田に飛来する。このとき，RSV を保毒したヒメトビウンカ（保毒虫）がイネを吸汁するとイネがウイルスに感染する。

［防除対策］

① RSV 保毒虫率が高かった地域では，ヒメトビウンカ防除を目的とした育苗箱施薬を行う。防除薬剤については表 2 を参考に選択する。

② 育苗箱施薬を行わない場合は，6 月中～下旬頃に幼虫を対象とした本田防除を行う。防除薬剤については表 3 を参考に選択する。なお，育苗箱施薬と本田防除を併用する場合等，複数回防除を行う場合は，薬剤抵抗性の発達を抑えるため，IRAC コードもしくは系統の異なる薬剤を選択する。

③ 当所が調査する 4 月下旬～6 月上旬の麦圃場におけるヒメトビウンカの発生量および RSV 保毒虫率に関する情報にも十分注意する。

表 2　イネのヒメトビウンカ防除に使用できる主な育苗箱施薬剤（平成 29 年 3 月 22 日現在）

薬剤名	剤の使用回数	有効成分名（有効成分の総使用回数）	IRAC コード[1)]
アドマイヤーCR箱粒剤	1回	ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞ(3回以内)[2)]	4A
スターダム箱粒剤	1回	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ(4回以内)[3)]	
ダントツ箱粒剤	1回	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝ(4回以内)[4)]	
フェルテラチェス箱粒剤	1回	ﾋﾟﾒﾄﾛｼﾞﾝ(3回以内)[5)]	9B
		ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ(1回)	28
デジタルメガフレア箱粒剤※	1回	ﾁｱﾒﾄｷｻﾑ(3回以内)[6)]	4A

※殺虫剤の有効成分名のみ記載

1）殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）により，殺虫剤の有効成分の作用機構を分類しコード化したもの

2）移植時までの処理は 1 回以内，本田での散布は 2 回以内

3）育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内，本田での散布，空中散布，無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内

4）移植時までの処理は 1 回以内，本田での散布，空中散布，無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内

5）移植時までの処理は 1 回以内，本田では 2 回以内

6）育苗箱への処理は 1 回以内，本田では 2 回以内

表 3　イネのヒメトビウンカ防除に使用できる主な薬剤（平成 29 年 3 月 22 日現在）

薬剤名	剤の使用回数	有効成分名（有効成分の総使用回数）	IRAC コード[1)]
スミチオン乳剤	2回以内	MEP(3回以内)[2)]	1B
MR.ジョーカーEW	2回以内	ｼﾗﾌﾙｵﾌｪﾝ(2回以内)	3A
トレボン乳剤	3回以内	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ(3回以内)	

1）殺虫剤抵抗性対策委員会(IRAC)により，殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し，コード化したもの

2）種もみへの処理は 1 回以内，育苗箱散布は 1 回以内，本田では 2 回以内

（注意事項）

● 表中の記載は，使用方法「散布」の登録内容である。

農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載されている使用方法，注意事項を必ず確認のうえ使用する。